

## インド・サールナート訪問記（続）

宮原 豊（9組）

### ◆サールナートで同期の田中さんに会いました

昨年12月末、65期HPに「インド訪問記」を投稿しました。その中で書ききれないことは別稿を立てようと考えていましたが、その筆頭が田中裕子さん（5組）のことです。

田中さんからインドに住んでいると聞いたのは、2016年の卒後50周年同期会でした。「インドは大変ですが、面白いところです。気が向いたらお出でを！」と5組の寄せ書きに書かれています。筆者が徐々に係わりを深めていくことになるバラナシ市内サールナートの初転法輪寺のこれほど近いところに住んでおられるとは想像もしていませんでした。

筆者は2018年頃からこの寺院の壁画保全の事業に取り組んできましたが、2019年にサールナートに行くことになると田中さんにメールをしたところ「寺院は日々の散歩道です」と返事があり驚きました。その年の東面（涅槃図のある）の工事の時には都合がつかず現地参加ができず、その後の南面と西面の工事には必ず参加しようと思っていたものの、コロナ禍で2年間足止めを食い、3年目ようやく実現する運びとなりました。

昨年の11月28日にサールナート入りすると、田中さんは我々保全工事チーム（7人）の到着をホテルに出迎えてくれたのでした。聞けば、家は直ぐ近くだとのこと、何か困ったことがあれば何でも言ってくださいと、この周辺のことは何でもご存じの様子です。それもそのはずで、サールナートに住んで40年近いそうです。それを聞いた時、自分が30歳代半ばから何をしてきたのかと、一瞬脳裏をフラッシュバックしました。田中さんは9組の牧野泉君や増沢賢一君と同じ上田二中出身だったので、高校時代から顔を見知っていました。

保全工事は12月16日の落慶式を目指して、初日から休日もなく18日間、朝の9時から夕方5時まで実施しましたが、田中さんはその間に夫妻で何回も寺院に様子を見に来てくれました。

ご主人はインド国立チベット大学（Central University of Tibetan Studies）の教授・哲学博士のチャムパ・サムテンさん。思慮深く優しい知的な方で、二人はとても仲の良いご夫婦のようでした。ある日の午後、チベット大学キャンパスとその中にある自宅に招いていただきました。広大なキャンパスの中は周辺のインドの喧騒とは別世界、静かな環境の中に校舎や教職員宿舎がゆったりと立ち並び、その中でも教授に与えられる広い部屋で快適な生活を楽しんでおられるようでした。広々とした緑の多いキャンパス内の校舎や研究室を訪ねましたが、特に充実したライブラリーは見事なものでした。サムテン博士はライブラリー館長も務められ、このライブラリーを拡充するのに多大な貢献をされたそうです。行く先々で関係者が親しく挨拶をして我々のキャンパス見学を快く迎えてくれました。【写真2、3】

### ◆インドとチベットの関係

中共・人民解放軍のチベット武力侵攻、人権弾圧による民族粛清と暴虐の歴史については、既に多く語られていますからここでは紹介しませんが、その歴史は日本人にとっても無関係でない

どころか、隣の「共産党独裁国家」の本質を知る上で学ぶべきことが多いです。それに対して、インドは中共軍の暴虐から逃れてきたダライ・ラマ殿下の居住する北のダラムサラだけでなくインド各地にチベット人キャンプを設け支援しました。インドは対中外交上でチベットを政治利用しようという目的以上に、チベット民族の宗教・文化・歴史を尊重していると思います。筆者が昔住んでいたニューデリーにもチベット人のコミュニティがあり文化センターがありました。サールナートにあるインド国立チベット大学のライブラリーには中共の弾圧を逃れてチベットからヒマラヤ越えした貴重なチベット仏教の経典が系統立てて収められていました。

ヒマラヤ山脈の西のカシミール（ラダック、レー）から東はシッキム、ブータン王国まで、山脈の南のインド人、真ん中のネパール人、北のチベット人は仏教による文化的結びつきが濃厚で、またこの地域はヒンズー教の神々の故郷でもあります。

今はこの大学にはチベット人の子弟だけではなく、ヒマラヤ山地や東北インド諸州の子弟が全寮制の学校で教育を受けているのだそうですが、そこには多様性を大切にするインド人の考え方が集約されています。それは忌むべき「民族浄化」を進める中共とは真逆で、インド政府やインドの人々の多様性を尊重し民主主義を保持しようとする寛容な精神性に根ざしていると言えます。

田中さんもインドに住んで、それもチベット人と結婚しているのでこのインド社会の懐の奥深さを感じているようでした。30歳代の中頃に、何があってインドを訪れることになり、どこでどのようにサムテン氏と知り合い、結婚したのか、それらについてはいつか田中さん自身に語ってみたいと思います。

#### ◆仏教発祥の地

ところで、サールナートは仏教発祥の地です。紀元前500年頃、ゴータマ・シッダルタはブツダガヤで悟りを開き、サールナートで初めて教えを説き、後にここは仏教を信奉して大インドを統一したアショーカ大王の遺跡が発掘された場所です。今から約100年前にインドでの仏教再興のシンボルとしてこの地に初転法輪寺が建てられました。今ではサールナートは世界の仏教の中心地となり、ここにはタイ、ベトナム、ミャンマー、台湾等から多くの巡礼者が訪れますが、迫害されて故郷を追われた仏教徒のチベット人にとっては特別に重要な場所なのだと思います。

この初転法輪寺はインド大菩提会（本部はコルカタ）にとって中心的な寺院ですが、宗派を超えた普遍的な存在として世界各国の仏教の中心的な存在でもあります。その寺院の釈尊一代記の壁画は世界の仏教界にとっても大きな存在です。壁画保全工事の落慶式に出席された各界の賓客の一人としてチベット大学の副学長ゲシュ・ナワン・サムテン師も祝辞を述べられ、参列した我々全員に記念品を授与されました。田中さんもその落慶式に出席されましたが、そこで多くの方々を紹介いただきました。また田中さんは初転法輪寺の住職とも旧知の間柄でしたから、我々が保全工事に関わった壁画のある寺院近くに田中さんご夫妻が住んでおられることはとても有難いことだと感じています。

#### ◆長野で再会を

さて、今年5月、長野市で野生司香雪展が開催予定です。善光寺雲上殿（納骨堂）の壁画を揮毫したのは香雪画伯ですが、縁があってサールナート壁画の下絵が永平寺に所蔵されており、その全点が出展予定だそうです。インドの最も暑い時期（4～6月頃）に、田中さんはご夫妻で日本を訪問される予定です。その時には信州（上田市か長野市）で再会したいと期待しています。  
（2023年1月3日記）

写真1：初転法輪寺本堂内の壁画を田中さんと見る



写真2：チベット大学ライブラリーで仏教經典を見せてもらう



写真3：チベット大学ライブラリーの仏教經典の収められた書架



写真4：サムテンさん（右）・田中さん（中）夫妻の自宅で（写真はダライ・ラマ殿下）



以上